

ウィキペディアを編集してみよう

1 Oct 2016 岡田一祐 (kzhr)

©CC-BY 4.0



目次

1. 百科事典としてのウィキペディア
ルールのもとにたのしんで百科事典を編集しましょう！
2. オープンなコミュニティによるフリーなウィキ百科事典
ウィキペディアでは、だれでも自由に書き換えられ、ほかのページにリンクしやすいシステムで百科事典を編纂しています（書いたものはずっと残ります）
3. 中立性と検証性
あたかも本のなかの存在を報告するかのよう書くことが客観性の秘訣です
4. 著作権に注意！
ウィキペディアに書かれたものは、だれもが自由に使えるものになります。表現の丸写しなどで他者の著作権を侵害することはしないように気をつけましょう
5. 構成の仕方
構成は真似をするのが一番です
6. 画像の効用
視覚の効果は絶大です。文章の補足として、視覚障害者の方などに配慮しつつ、画像は積極的に利用しましょう
7. ウィキ便覧
これであなたもウィキペディア・マスター！

1 百科事典としてのウィキペディア

ひとことで：ルールのもとに、たのしんで百科事典を編集しましょう！

ウィキペディアは、ウィキによって百数十の言語で展開する百科事典のひとつです。百科事典としてのウィキペディアの特徴は、(1)内容はオープンなコミュニティによってウィキ上で執筆・編集され、(2)コミュニティは自治がされ、(3)その成果はすべてフリーなものとして提供されるという点にあります。ウィキペディアのルールというものは、このような性質を反映して歴史的に作りあげられてきたものです。

このガイドは、みなさんをウィキペディアの編集の実際へ導くべく、編集上とくに気を付けていただきたいことを手短かにまとめたものです。

2 オープンなコミュニティによるフリーな百科事典

ひとことで：ウィキペディアでは、だれでも自由に書き換えられ、ほかのページにリンクしやすいシステムで百科事典を編纂しています（書いたものはずっと残ります）

ウィキペディアは、インターネットに繋がられればだれでも編集できる百科事典です。このウィキペディアに参加して、内容を執筆したり編集したりするボランティアたちによって（言語ごとに）コミュニティができ、そのボランティア・コミュニティが各ウィキペディアを運営しています。みなさんも、程度の差はあれ、今回参加して執筆・編集なさることで、日本語版ウィキペディアのコミュニティに参加していることになります。

ウィキペディアで使っているウィキでは、ページごとに編集履歴が残り、（さまざまな理由で削除されないかぎり）だれでも確認できるようになっています。その履歴の積み重ねがいまのウィキペディアを作っているのです。

3 中立性と検証性

ひとことで：あたかも本のなかの存在を報告するかのように書くことが客観性の秘訣です

ウィキペディアでは、だれでも自由に編集できるからこそ、専門家が書き下ろすのとは異なり、さまざまな意見をバランスよく（闇雲な両論併記ではなく）、あとから確かめられる形で書いていくことが求められます。つまり、原則としては、文献を調べて分ったことのみを、なにを調べたか分るようにして、うまくまとめる必要があるということです。

これは、あたかも本や論文のなかにしか存在しないものを、どこで見たかと逐一報告するようなものです。さらに、本一冊に書かれたことよりも、複数の本の複数の報告をまとめたほうが信憑性も増すというものです。あれこれ文献を調べ終わったら、自分で知っていることを一度忘れて、文献だけを頼りにまとめてみてください。

4 著作権に注意！

ひとことで：ウィキペディアに書かれたものは、だれもが自由に使えるものになります。表現の丸写しなどで他者の著作権を侵害することはしないように気をつけましょう

ウィキペディアに書かれたものは、最低限の決まりを守れば、だれでも使ってよいものです。この決まりをライセンスと言います。文章や画像等のライセンスを決められるのは、著作権を持っているひとだけです。自分が書いた文章以外は投稿しないようにしましょう。

なにより、著作物の丸写しは著作権侵害です。そうでなくとも著作権侵害はいけないことですが、ウィキペディアでは、だれもが使える原則を守るために、とくにライセンスを厳密に守ることを重視しています。文献をまとめるときは、適切に要約・引用をしましょう。

著作権侵害が確認されたページは削除されます。そういうことのないように……。

5 構成の仕方

ひとことで：構成は真似をするのが一番です

構成には定番があります。慣れないうちは、ウィキペディアのいろいろなページを眺めて、いい構成・悪い構成を参考に調べたことをまとめてみましょう。

あるいは、ウィキプロジェクトというものでは基本的な構成の案を提示しています。執筆に関するローカルルールが存在することもあります。そのばあいは、それに従うことで、内容の整理に集中することができるようになります。ぜひ活用しましょう。

たとえば、ウィキプロジェクト大学では、大学に関するページの構成や準備すべき情報についてテンプレートが用意されており、それを埋めれば最低限の内容が出来上がるようになっています。それ以上発展させるためには、もちろん自分なりのまとめかたも必要にはなってきますが、あたらしくなにかを始めるとき、ウィキプロジェクトなどでテンプレートが用意されているところからスタートするのはよい案です。

6 画像の効用

ひとことで：視覚の効果は絶大です。文章の補足として、視覚障害者の方などに配慮しつつ、画像は積極的に利用しましょう

一枚の説明用の画像があることによって、何十行もの説明が一気に分りやすくなるということがあります。たとえば、札幌時計台の外観をいかほどことばで尽くすとしても、一枚の写真の説得力には敵いません。写真はいろいろな角度からこまめに撮って、説明の補足として有効に活用してください。ときには模式図なども有効です。

ただし、画像は必ずしも万人向けではありません。たとえば、視覚障害者には、一枚の写真で説得力を持たせようとしてことばを省いてしまっては、なにも伝わりません。適切なキャプションが必要ですし、あくまで画像は補足であるということを念頭に置いてください。

7 ウィキ便覧

ひとことで：これであなたもウィキペディア・マスター！

ビジュアル・エディターは導入されましたが、ウィキペディアを編集するにはまだまだ書き方上の知識（文法ないしウィキ記法といいます）が必要です。以下ではその概略をお伝えするほか、便利なリンクをご紹介します。

段落区切り 改行二つ

"太字(三つ)", "斜体(二つ)", ""斜体で太字(五つ)""

[[ほかのページへのリンク]] [[ほかのページへのリンク|実際に表示される文]]

[[画像:«画像ファイル名»|thumb|キャプション]]

== 見出し 1 ==

=== 見出し 2 ===

* 箇条書きリスト

番号付きリスト

; 用語：定義

本からの引用：

<ref>{{Cite book |和書 |author=著者氏名 |year=出版年 |title=本のタイトル |page=指示ページ |publisher=[[出版社]] |isbn=ISBN コード }}</ref>

論文からの引用：

<ref>{{Cite journal |和書|author=著者氏名 |year=出版年 |title=論文のタイトル |journal=雑誌のタイトル |volume=巻 |issue=号 |naid=NII の論文 ID |pages=指示ページ }}</ref>

引用リスト：{{reflist}}

Wikipedia:五本の柱

<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E4%BA%94%E6%9C%AC%E3%81%AE%E6%9F%B1>

Wikipedia:ウィキペディアへようこそ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%82%AD%E3%83%9A%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%A2%E3%81%B8%E3%82%88%E3%81%86%E3%81%93%E3%81%9D>